

朝鮮半島の平和のため対話を! 非武装地帯近隣に 海外同胞特区創設を!

三千里鐵道が名古屋で記者会見、 朝鮮半島南北両政府への要望書発表

2011年新年を迎えた1月7日午後2時、名古屋市内で非営利活動法人三千里鐵道が共同記者会見を行った。記者会見は名古屋テレビと、中日、読売、朝日新聞の記者らが参加して始まった。

会見は事前に配布された南北両政府に対する要望書の発表から始まった。(要望書は2面)

続いて記者らの質問があった。ある記者は「この時期に南北両政府に対する要望書を発表するのは、昨年あった延坪島砲撃事件と関連があるのか?」と問い、都相太理事長は「ある。昨年私たちは1950年の6.25以後最大の危機に直面した朝鮮半島を見た。また、6.15以後南北の和解と協力のために積み上げた希望の塔が、無残に崩れ落ちる姿を見た。今回戦争が勃発すれば同族が共に滅びる。絶対、戦争への道を遮らなければならないという切迫した心情で、この場所に立った。」と答えた。

今後の活動予定に対する質問には、「…複雑な在日



の状況の中で、誰にも分かりやすく、目に見える具体的な活動を心がけたい。現在、非武装地帯近隣北域での養豚団地造成構想と実験のために、日本の地で三千里牧場を管理、運営している。政治に左右されない海外同胞特区のようなところで、民族の生命と半島の平和のために、在日同胞の若者たちと共に汗を流すこと、これが私の夢であり願いだ。」と語った。

新年になっても朝鮮半島から聞こえてくる不穏な状況は、海外同胞と日本の良心に不安と苛立ちを感じさせる。

今回の記者会見は、朝鮮半島の平和と統一を祈って生きてきた我々の止むにやまれぬ小さな決起であった。三千里鐵道の起こしたこの小さな行動が、南北と海外に住む同胞の心に小さな波を起こし、それが河となりうねりとなって、朝鮮半島の和解と平和定着に寄与することを切に望む。(2、4面に続く)



大韓民国政府 朝鮮民主主義人民共和国
統一部 内閣
貴中



南北兩政府に対する
要請書

非営利活動法人三千里鐵道は2000年6月15日に採択された南北共同宣言の合意を実践するため鉄道連結事業に賛同し、在日韓国・朝鮮人と日本人によって結成された団体です。

何よりも朝鮮半島の平和と統一こそがわれわれの願いであり、その願いのために微力ながら貢献したいと考えて活動しています。

2002年には、別添の領収書にありますように韓国統一部へ、朝鮮民主主義人民共和国内閣へ、それぞれ680万円の募金を、非武装地帯の鉄道線路代金として届けました。

600万人とも700万人ともいわれる海外同胞の一員であるわれわれは朝鮮半島の平和と統一を、この数十年間、祈りを込めて待ち続けていると言っても過言ではないでしょう。

現在の南北対立を憂慮し、決して戦争への道を歩まないことを心より念願しています。

南北にそれぞれ主張があることは承知していますが、主張はあくまで話し合いの前提でなくてはなりません。主張の行く先に戦争を選択してはなりません。

非営利活動法人三千里鐵道は、朝鮮半島の平和と統一を願い、6・15南北共同宣言を記念し、毎年記念行事を実施しています。

10周年に当たる2010年6月には、「討論会、東北アジアの平和を求めて」を、多くの日本人を含め実施しました。

非営利活動法人三千里鐵道は発足以来「和而不同」を前面に、主張の違いを乗り越えてきました。

非営利活動法人三千里鐵道の理事長都相太は、これら10年間の活動を評価され、2010年5月ハンギョレ統一文化財団より「統一文化賞」を授与されました。

非営利活動法人三千里鐵道は、その理念と行動をもって、南北兩政府に以下のことを要請いたします。

- 1.南北兩政府は、平和という前提に立ってそれぞれの主張を展開すること。
- 2.南北兩政府は、一切の武力行使を排除し、北方限界線付近ではいかなる軍事演習も実施しないこと。
- 3.南北兩政府は、海外同胞が平和と統一に寄与できる南北それぞれの特別地域（仮称「海外同胞特区」）を、非武装地帯付近に兩政府の協議で確保すること。
- 4.南北兩政府は、非武装地帯の往來の權利を海外同胞に認め、それぞれ特別地域（海外同胞特区）の往來の自由と安全を保障すること。

最後にわれわれ海外同胞は、海外同胞と協力者の資金と労力で、その特別地域（海外同胞特区）において、非営利活動法人三千里鐵道が日本の地で試行している養豚団地のような南北双方の利益となる人道的協力事業を展開する。

2011年1月7日

〒440-0091 日本国愛知県豊橋市下五井町青木31番地
非営利活動法人 三千里鐵道
理事長 都 相太



京都で「丹波マンガン記念館」再建基金コンサート開催



昨年の11月27日YBは、京都で「丹波マンガン記念館」再建基金コンサートを開いた。

この記念館は日帝時代に、マンガン鉱山にて強制労働にあった在日朝鮮人らの辛い歴史を知らせるために設立された記念館だ。1989年開館した日本国内唯一の強制徴用を刻む記念館だった。しかし累積赤字に耐えきれず、一昨年閉館になったが、昨年6月27日良識ある日本人と在日同胞が記念館再建委員会を結成、このことを知ったYBが応援に手を挙げた。

慈善コンサートはまずチョンヒスン実行委員長の挨拶から始まった。…丹波マンガン炭鉱記念館は、先代の館長、そして父の遺志を継いだ息子の現館長が、一人で支えて来た。今日のコンサートが、その決意をあらたにするきっかけになることを確信します、と、やや上ずった声で力強く挨拶した。

照明が消え、ほの暗い舞台に出演者が一人、二人と現れた。そして、生のYBが照明に照らされた。

会場から湧きあがる歓声、その歓声すら押しつぶすほどのロックの嵐が2時間続いた。正直、圧倒された。

特にこの日のためにユンが作詞、作曲した「丹波マンガンの歌」には深い感銘を受けた。

♪丹波マンガン

過去の中に明日がある

丹波マンガン

痛みの中に希望がある

万雷の拍手と喚声。舞台と観客が一つになり、何度も何度も繰り返して大合唱した。

そして、民族の歌・アリランへとヒートアップした。

♪我ら是一つ

同じ歌をうたい

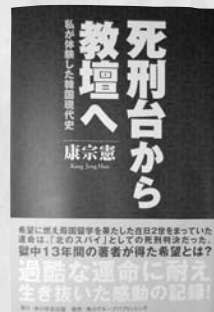
同じ踊りをおどり

同じ空の下で祈祷してきた

最後にYBは、韓国でも今支援の輪が広がっている。皆さんと一緒に手を携えて、マンガン炭鉱記念館を再建しよう!と力強く叫んだ。

死刑台から教壇へ (康宗憲著)

感想文メモから



文字通り言語に絶する過酷きわまりない体験をされて、よく生き延びてこられたものと、私には完全に想像を超える世界です。

それに加えて驚かされますことは、これだけの地獄を経験されながら、そのように穏やかなお人柄でいられるということです。何か、神様がついていられるのかも知れませんね。(兵庫県 T)

内容的には決して喜ばしいものではありませんが、苦難を乗り越えて今日を迎えられた康さんの人生を通して、生々しい韓国現代史を多くの人々に知ってもらう書籍が誕生したことを素直に慶び、また、拍手を送りたいと思います。小生と同世代の一人の男性が歴史の大きな渦に巻き込まれていく様子が恐ろしいほどの緊迫感を持って胸に迫ってきます。(M)

私は根っからの日本人です。日本の植民地支配や在日朝鮮人への差別等を思うと、日本人であることが恥ずかしい。でも、本書で紹介された著者の小学校時代の坪井先生、高校時代の福田先生などは、同じ日本人として誇らしく、また嬉しく思いました。(豊川市 O氏)

拷問の惨さに身震いし、軍事独裁政権への憤りと、犠牲となった人々への哀悼の思いが胸を突き上げました。みんな直接会ったことはないけれど、何度も読み聞きし、口にしたひとたちの名前です。

当時は何も分からず、正義感や怒りに突き動かされて、突き進んできたけれど、それは間違っていなかったし、正しい選択であったとあらためて思い返します。(大坂府 P)

この体験記は『道』と『徳』の教科書だと思います。

本を吟味した後、この青い眼にはタイトルの《死刑台から教壇へ》が《クナリ オンダからクナリ ワッタへ》と映りました。(北海道 M)

24歳から37歳までの人生で一番花開く時期に獄中生活を強いられた康氏を、さぞ無念であったろうと最初は同情しながら読んでいた。しかし、出所する前日の夜、刑務所の冷たいコンクリートの壁を愛着と郷愁の思いで撫でられる場面まで読み進むと、獄中生活の苦難を乗り越え勝利した康氏にうらやましさを感じた。(豊橋市 S氏)

(著者、当編集部に寄せられた感想文から抜粋)

ある日のスナップ 三千里牧場

Photograph

愛知県豊川市を流れる佐奈川のほとりにNPO法人「山羊のいる風景」事務所がある。

名古屋から疎開した都家の人々は、佐奈川土手沿いに豚小屋を建て、養豚を始めた。父母を手伝い、豚を見て育った子どもたちも、やがて大人になり父と同じ齢になった。今「山羊のいる風景」には新たな仲間が加わり、豚はより広い三千里牧場に引っ越した。

父の面影を偲びつつ、息子都相太さんは今日もこの牧場から、海外同胞特区での養豚事業に夢を馳せる。



江華島から眺めた 北の山河

昨年7月から9月にかけて韓国で生活した。智里山、光州、独島をめぐり、金大中大統領墓所参拝も果たした。現地からブログで送信した内容を、後に統一ニュースに「ある在日同胞の韓国紀行」と題し連載した。以下江華島編を紹介する。

昨年の8月、ぼくは弘益大近くの「空間415」で開催された李時雨写真展「漢江河口」に行った。統一ニュース金編集局長の案内で訪問し、作家の歓迎を受けた。

展示作品の説明を受けた後、主催者から「作家と歩く江華島」の企画を聞き、その場で参加を申請した。

当日は曇り時々雨の天候、集合場所は燕尾閣であった。臨津江と合流した韓江河口、向かって左は北朝鮮との間を流れ、右は韓国領に沿って流れる。燕の尾のような形状なので、この楼閣を燕尾閣としたそうだ。

早めに着いたのでぼくは、作家と一緒にあたりを歩きながら、初めてみる風景をカメラに収めた。すると、軍の監視所の向こうに、割とはっきり見える川中の島が目に入った。作家の説明ではこの河口は、停戦協定に陸地のDMZとは違い、双方の船舶の航行を認めているという(実際は超緊張状態の続く地域ではあるが)。それでこの川中島は、法的にはどちらの領土でもない状態という。ずーっと無人島だそうだ。

ぼくは漢江側の塀に近づいた。対岸の北側の地が手に取るように見えた。対岸の黄海道穀倉地帯は、雲空の下で霞に包まれ青い帯のように横たわっていた。ここ漢江河口は、陸地の緊迫した非武装地帯とは違って、ゆうゆうと流れる漢江から望む北側風景はどこか長閑で暖かくさえ感じた。

李時雨氏が口元に笑みを浮かべながら、“ナム先生、ご存知な方いれば呼んでみてはどうですか?”と話しかけてきた。

やがてまた、ある集団が合流した。ご婦人方であった。作家の夫人キム・ウンオクさんが地域で推進している市民運動グループのメンバーだそうだ。

その日20人余りが集まった。大半は2,30代の青年と学生、ご婦人たちだった。

今日のセミナー講師が紹介された。李時雨氏は、江華島でのセミナーはいつもここからスタートしていると話し、続いて自身が江華島に移住した理由を次のように述べた。



“凡そ物事を中心、核心は痛みが一番大きいところです。だから韓半島の中心はまさにこの分断地点です。韓半島の非武装地帯と漢江河口は、私たちの民族が苦痛を強いられている分断の現場であり、痛みの核心です。私はこの痛みの現場に身を置き、活動し思索し創作することを決心して、ここに生活拠点を移しました。”

その後ぼくら一行は、古代朝鮮の遺跡であるコイムドル(支石墓のこと)を見学した後、平和展望台に寄った。

民間人立入禁止区域になっているこの一帯は、軍の立入許可なしには入れない。武装した軍人の立つ歩哨を抜け、3階建ての展望台から見る北の地は、よりはっきりと見える。

ここでも作家は、漢江河口の持つ意味と朝鮮半島の平和、統一の大切さを説いていた。

セミナーの終わりに、作家の庵(仕事場)を訪問した。

壁一面の書棚とPCがぼつんと一台、ここで作家は書を読み思考を重ね、行動計画を練るのであろう。

作家を交えて車座になり、自然と感想会が始まった。それぞれ感想を話した。ぼくの順番になると、作家がぼくを紹介してくれた。日本で民団、総連、日本の人々が理念と民族を超越して、韓半島の平和と統一のために活動する団体と三千里鐵道を評してくれた。

ちょっと照れくさい気がしたが、ぼくは漢江河口で北側の地を見た感想を率直に吐露した。

“非武装地帯には、北側からも南側からも行ったことがある。その都度ぼくは、分断の悲劇を実感したが、今日ここ漢江河口で手の届くような北側の地を見ると、希望が湧く。停戦協定には境界線がない、漢江河口に船を浮かべ気球を飛ばそうと構想し、行動する平和運動家である作家の活動に感銘を受けた。10.4ではこの海域を南北の共同漁労区域、平和の海にしようという合意をみた。今は天安艦事件など超緊張の現場になったが、今後も海外で希望を持って皆さんと連帯してゆきたい。”

別れる時作家はぼくの手を握って、都相太理事長によろしくと話した。数か月前の春、突然ここまで訪ねて来られた理事長の姿に驚き、また勇気を得たと懐かしく語った。

江華島、漢江河口での一日は、李時雨作家の思索と創作、平和と統一への不屈の意志、活動と共に、ぼくの記憶の中にいつまでも残るであろう。(南相三)

◆コリア国際学園を巣立つ一期生

個性と意欲を発揮すれば、好きなだけ学べる。 将来への夢は…

高等部3年 趙歩美さん

昨年12月2日、毎日放送(MBS)が関西地域に放映した番組「ちちんぷいぷい」でコリア国際学園が紹介された。ヨンピョン島砲撃事件後の緊迫した状況下であって、北も南も我が祖国、戦争してほしくないと言語する生徒さんの言葉に、コメンテーターのピーコも涙した。第一期卒業生として飛立つ趙歩美さんの想いは…。



私は福岡県から大阪府にあるコリア国際学園に入学して、3年間寄宿舎で生活をし、現在は2月の卒業を間近に控えています。入学して韓国への短期研修、鶴橋の仮校舎での生活、そして茨木の新校舎での学校生活と、3年間があったという間に過ぎました。

私は中学生の頃から韓国へ留学したいという気持ちが強く、高校3年間留学のための準備をし、無事韓国のソウル大学と延世大学に合格することができました。そしてソウル大学への進学が決まっている今、コリア国際学園で学んだことにとっても感謝をしています。学生数も少ない小さな学校だけど、コリア国際学園では好きなだけ学ぶことが出来ました。興味があることや学びたいこと、自分から行動を起こせば、先生方はいつでも惜しみなく手助けをしてくれます。そのことにとっても感謝しています。

また、私は特別授業や教養といった一風変わった授業がとても好きでした。たくさんの経験を持った方達の話を聞くことは、私の価値観や将来の目標を決める上で

もとてもためになりました。将来は、途上国の子どもの貧困問題などの解決に役立つことができるよう、国連などの国際協力機関で働くことができたらと思っています。韓国に留学しても、勉強や生活面でも苦勞することが本当にたくさんあるだろうけど、色々な手助けをくれた先生方や、いつも私を見守ってくれる家族に恥ずかしくないように、自分ができることを精いっぱいがんばります。

最後に、コリア国際学園は自分の個性と意欲を発揮すれば、自分次第で好きなだけ学ぶことができる場所です。私たち1期生が卒業しても、後輩たちが素敵な学校を創り続けられることを確信しています。



コリア国際学園

We're Dreamer.

人間を豊かにするもの、それは時間と空間が創造します。
喜び、驚き、楽しみ、ゆとり、やすらぎ、あたたかさ…
夢屋はアミューズメントホールを通じて
あなたの心を豊かにしたいと考えます。

北海道から九州まで全国38店舗の「夢ホール」。

私たちはアミューズメントを通じて
全国にコミュニケーションの場を提供し
「憩いと癒しの空間」を創っています。

お客様一人ひとりに夢と活力を与え、

日々の生活に潤いをもたらすこと、

これこそが私たちの目指す事業であり、夢なのです。



**YUME
CORPORATION**

おかげさまで創業**40**周年。
夢コーポレーション株式会社

〒440-0075 愛知県豊橋市花田町字西宿23番8

コロシアベニュー3F TEL (0532) 57-1811

www.yume-corp.co.jp

夢屋グループ38店舗 夢屋釧路新橋店/夢屋豊岡店/シンフォニー手稲店/シンフォニー麻生店/SC夢屋石堂店/夢屋新井田店/夢屋浪岡店/夢屋羽後店/夢屋盛岡店/夢屋新庄店/夢屋多賀城店/夢屋角田店/夢屋白河店/夢屋西那須野店/夢屋黒磯店/シンフォニー藤岡店/夢屋浦安店/夢屋富里店/夢屋小諸店/夢屋五香店/シンフォニー大森店/夢屋浜松店/SC夢屋ファイブ店/夢屋稲沢店/夢屋恵那店/夢屋各務原店/夢屋土岐店/夢屋玉城店/夢屋加古川店/ジャムジャム長岡店/夢屋鳴門店/夢屋多度津店/夢屋土佐店/夢屋大牟田店/夢屋都城店/夢屋霧島店/夢屋加賀店/夢屋天草店



「韓国併合100年」から「これからの100年」へ

「韓国併合100年」東海行動については、前号の「ただいま活動中」で報告した。その続きを。いずれも酷暑のなかでの活動。

7月31日、岐阜県可児市にある地下壕へのフィールドワーク。朝鮮半島から強制連行された人々を強制労働させた、軍事トンネル工場跡だ。在日学生たちをふくめて22名が参加。岐阜県地下壕研究会のメンバー10名が迎えてくれた。

8月7日、「見て知る!朝鮮と日本の100年間」と題して1日がかりの映画会を開く。上映はドキュメント「日韓併合への道」「朝鮮半島植民地支配の実態」「朝鮮戦争」「ウリハッキョ」。ザイトクカイが大通りの向こうでマイク宣伝。招かざる客の到来を知って、午前10時の開場とともに客席が埋まる。

8月12日～15日、平和のための戦争展に106枚のパネ



ルを並べて「韓国併合」写真展。地元春日井の民族学校がたたかった教育闘争なども写真で知ることができた。



6月にわたる行動のメは8月28日の「100年と向きあうつどい」。メインは趙博さんの独演「バギヤンが韓国併合100年を唄い語る」。浪速の唄う巨人が「百年節」「ソウルからピョンヤンまで」など唄の間に語りをはさんで、会場は存分に盛り上がった。第2部シンポジウムでは旧日本軍性奴隷被害女性を支える会の久野綾子さんが「植民地責任—補償と謝罪」、磯貝が「日本の戦後朝鮮半島政策を問う」、在日韓国青年同盟愛知の趙吉春委員長が「在日韓国朝鮮人と日本社会—歴史と現実」と題して発題。参加者からの活動報告、提案もあった。

「韓国併合100年」東海行動は一区切りとして記録集「100年と向きあう日本の良心をつくろう」を刊行した。発足集会における康宗憲さんの講演を軸にシンポジウムの発題、活動報告に写真を添えて構成した。1部200円で発売している。

100年東海行動は名称をそのまま残して継続する。2010年を心に刻み「これからの100年」に向けて活動をつづけるために。

課題は書ききれないほどある。スケジュール闘争に偏することなく、運動をいかに日常化するか—それが問われている。

(作家 磯貝治良)

一日も早く「慰安婦」問題の解決を!

私たち日本軍「慰安婦」問題関西ネットワークはこの1年間、日本軍「慰安婦」問題の立法解決を求めて120万人署名に取り組んできました。立法案を参議院に8回も提出してきた民主党が、政権交代を果たしたことで被害女性たちはもちろん、私たちも解決への期待が高まりました。私たちは各地の市議会の意見書可決運動と併せて署名運動を取り組み、市民にこの問題を伝え、共に



解決しようと訴え、地元の国会議員に面談してきました。韓国でもこの取り組みは50万人署名として、またフィ

リピン、台湾、ヨーロッパでも国際署名として広がりました。

最近の民主党には失望してしまいましたが、11月25日に熱い願いを込めた海外の署名と共に約60万人の署名を内閣府に提出し、26日に韓国国会議員177名の署名が外務省に提出されました。

しかし、署名提出の前々日に起こった砲撃戦は大きな衝撃でした。日本政府は強制併合から百年の今年、植民地主義を反省し、アジアの平和を誓ったはずなのに、「慰安婦」問題の解決どころか、戦争政策を推進する危険性さえあり、メディアは軍備強化とナショナリズムをあおり立てています。

被害女性たちからは「戦争をしたら私たちのような被害者が出るんだ」と叱責されました。再びこのような犠牲者を出さないために、一日も早く「慰安婦」問題の解決のために努力していきます。

(日本軍「慰安婦」問題関西ネットワーク 西村寿美子)

朝鮮半島に平和を!! 大討論会

6.15共同宣言-それは、最後の冷戦の地である朝鮮半島に和解と平和、対話と協定の時代を切り開いた。

以来、南北は朝鮮戦争の時に分断された京義線をはじめとした鐵道の復元に取り掛かり、開城工団の建設が始まり、離散家族の再会が果たされた。

2002年9月、日本の小泉首相が朝鮮民主主義人民共和国の平壤に飛び朝日平壤宣言が発表された。

2003年8月には、朝鮮半島の非核化と平和を求めた六か国協議が開始され、画期的な合意がなされた。

何より、在日同胞社会においては、南のみを祖国とする韓国民団と、北のみを祖国とする朝鮮総聯の間で和解が始まり、各地で和合の行事が開催された。

私たちは、この和解の時代の到来を心から喜んだ。

6.15共同宣言が指し示した朝鮮の平和と統一につながるこの一本道を、海外同胞としてともに歩いてきた。

しかし昨年、私たちは落胆と失望の1年を経験した。



6.15共同宣言
あの日、私たちは心の底からマンセー(万歳)を叫んだのではなかったのか…

3月の天安艦沈没事件、11月の延坪島砲撃事件は、南北が軍事対決の時代に逆戻りしたことを意味した。

両事件が起こった西海は、2007年の10.4共同宣言の時に『平和の海』にしようと南北が誓い合った海であった。それが、『戦争の海』と化してしまったのである。

在日同胞社会においても、民団と総聯の関係は完全に閉ざされ、日本社会の朝鮮民主主義人民共和国に対する視線はますます厳しくなってしまった。

在日同胞は、祖国と関係ないのか?

日本という国家は、朝鮮半島の分断に責任はないのか? 平和と統一を望んでいるのか?

朝鮮半島の平和を脅かしているものの正体は何か?

在日同胞は、いつまで南北分断祖国の従属変数であり続けるのか?

海外同胞は、そして日本人は、朝鮮半島の平和にどのようにしたら寄与できるのか?

海外同胞として… 日本人として… なにより人間として…

この大討論会は、従来の教室型ではなく、席の配置を円卓型とし、参加者が互いの顔を見ながら積極的に自由に討論に参加できるようにします。

一人でも多くの同胞が、そして日本人がご参集くださいますよう、お願い申し上げます。

日時 6月12日(日) 午後2時半開場 3時開演

場所 名進研ビル 3階大ホール

(名古屋市西区名駅2-34-19 名古屋駅より北へ徒歩5分 サンルートホテル北側)

参加費 500円(学生無料)

主催 NPO法人 三千里鐵道

問合せ 0532-53-6999